

豊能町役場 御中

豊能町の地域経済活性化に貢献する とよのんウォレットとMyDID



Digital Platformer株式会社
2022年4月13日



提供サービス①：とよのんウォレット

豊能町内でのみ使えるデジタル通貨・デジタル商品券やポイントの発行・利用・管理を行うサービス。スマホで使うお財布アプリ。

提供サービス②：MyDID

スマホに入れて持ち歩く、新しい時代の身分証明書。
ブロックチェーン技術でプライバシーを保護、
より便利で安全に個人情報管理する仕組み。

とよのんウォレット（DP提供）



地域通貨ウォレット／MyDIDの生成を行う
システム・アプリケーション

①個人情報取得

- ・氏名
- ・生年月日
- ・性別（任意）
- ・本人確認番号
- ・ユーザー名
- ・Eメール
- ・電話番号
- ・住所
- ・パスワード

を取得してDID*を生成

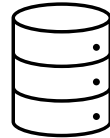


②デジタル地域通貨 （商品券／ポイント）

- ・使う
- ・受け取る
- ・残高照会
- ・利用明細表示



③個人情報は
DP社のサーバーに格納



⑤Open ID Connectで接続

⑥Open ID Connect4IDA
の仕様に従い個人情報を提供

個人情報提供

- ・氏名
- ・住所
- ・電話番号
- ・Eメール
- ・DID
- ・IEAレベル*

Personal -Link
UAX-LINK
（とよのんコンシェルジュ）
接続

④デジタル地域通貨アプリの
Eメールアドレス／パスワード
で認証
個人情報提供の利用規約に
同意し次へ

⑦個人情報を表示
保存しない
Eメールアドレス
DIDのみ保存

*DID = did:lita:uuid(32桁のユニークな個人識別番号)

*IEAレベル = 1（自己申告）

①

域内経済活性化



豊能町でしか使えない
デジタル通貨を流通させることにより
経済循環率を向上させる

②

地域コミュニティ活性化



SDGsや地域コミュニティへの貢献で
デジタル通貨として利用可能なポイントを付与
地域コミュニティに参画する動機を創出する

③

他サービスとの連携



豊能町スマートシティPJの
他サービスと連携
(モビリティやヘルスケア関連など)

豊能町で暮らす人々のための
「お得」かつ「便利」なインフラの一部になることを目指す

TOYONON
WALLET



とよのんウォレット

とよのんウォレットの導入と 地域経済活性化の取り組み

TOYONON
WALLET



とよのんウォレット

2022年7月1日から

とよのんウォレットの導入・運用スタート

2022年度は

「とよのんプレミアム付きデジタル商品券」

の運用を行う

5月25日に町民へ告知、7月1日のサービス開始を目標に プロジェクト進行中

4月～5月中旬：準備期間

- ・マニュアルやFAQの作成
- ・加盟店開拓・説明会
- ・商工会や金融機関への協力依頼
- ・Webサイト作成（豊能町HP内）

5月下旬～：住民への告知開始

- ・5/25にデジタル商品券実施の告知と申込用紙の全戸配布
- ・とよのんウォレットアプリストア公開

6月～：ローンチ直前→ローンチ

- ・デジタル商品券当選者抽選・説明会
- ・チャージ用窓口開設（特定の期間内）
- ・加盟店精算窓口開設（商工会）
- ・**7/1ローンチ**

総額**1800万円**のデジタル商品券が豊能町内に流通予定

デジタル商品券の発行者	豊能町役場
販売数	1,500セット
1セットごとの販売金額	10,000円
プレミアム率	20% (2,000円)
額面	12,000円
額面総額	18,000,000円
世帯ごとの購入上限金額	30,000円（3セット、額面36,000円）まで
販売開始日	令和4年6月 x 日（x）～販売数終了まで
利用期間	令和4年7月1日（水）～令和4年12月31日（金）
加盟店精算期間	令和4年7月1日（水）～令和5年1月31日（火）

豊能町デジタル通貨事業 今後の展望

デジタル商品券 (22年7月～)

- ・プレミアム付きデジタル商品券の発行と運用
- ・とよのんウォレットの利用に慣れてもらう
- ・期間限定で豊能町の経済を活性化させる

ポイント連携 (22年12月頃)

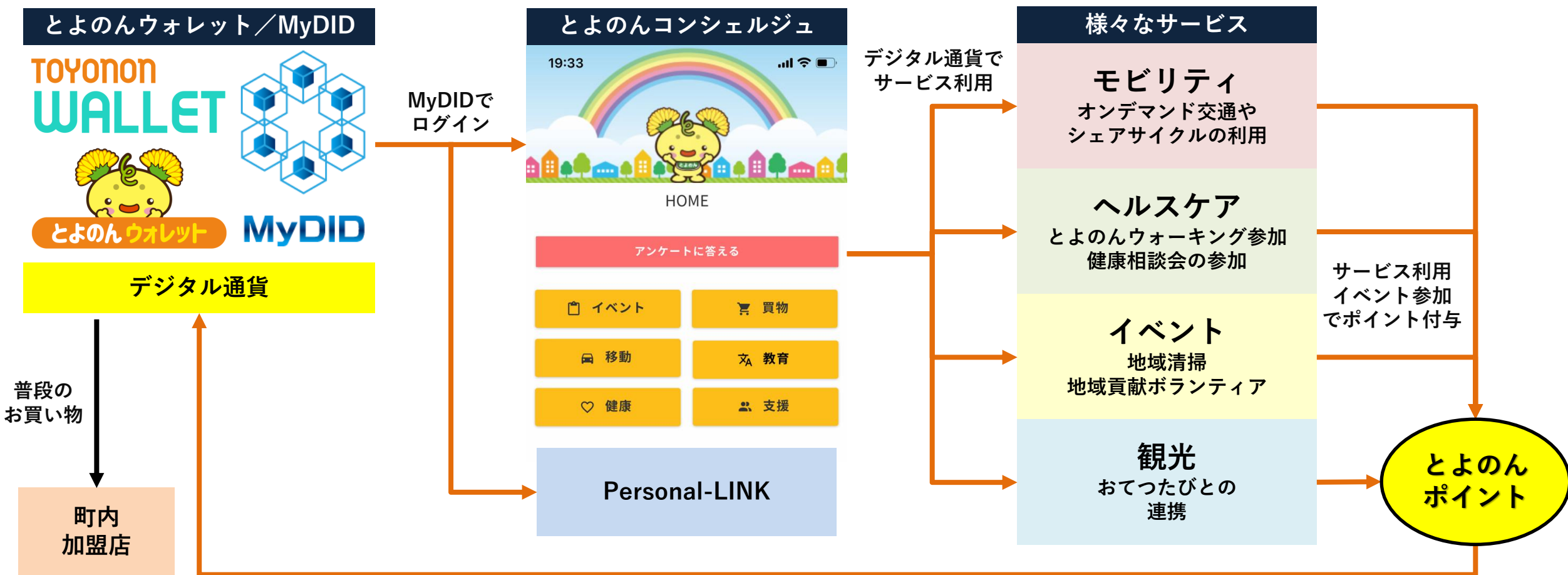
- ・ポイント制度ととよのんウォレットの連携
- ・ポイントの利活用でとよのんウォレットの利用促進

繰り返し使える デジタル地域通貨 (23年度以降)

- ・繰り返しチャージ可能なデジタル通貨の導入
- ・近隣市町村との広域連携
- ・給付金の配布、税金の支払いなど行政サービスにも活用できるデジタル通貨へ

豊能町デジタル通貨事業 連携イメージ

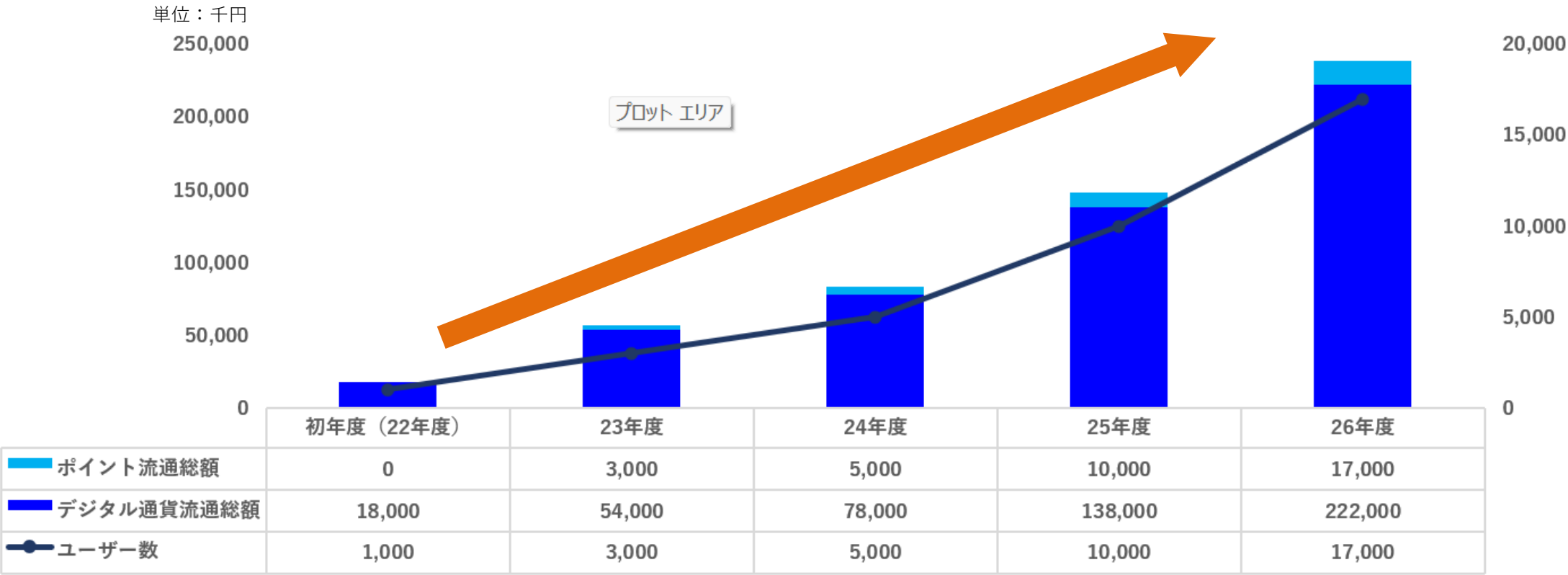
デジタル通貨が加盟店だけでなく町内で提供する様々なサービスと繋がり
豊能町内の経済循環率を拡大させる



参考：デジタル通貨事業が豊能町にもたらす経済効果のシミュレーション

22年度はデジタル商品券のみの経済効果（流通総額1800万円、23年度以降も毎年同額の商品券を発行想定）

繰り返し利用可能なデジタル通貨（23年度以降）にすることで経済効果を格段に高めることが可能
*1ユーザーあたりデジタル通貨を月1000円ずつチャージ、ポイントを年間1000ポイント獲得して利用と仮定すると
26年度には年間流通総額2億円超に



*ユーザー数は総務省提出済みのユーザー獲得目標の数値を記載



MyDID

MyDIDの導入で実現する世界

MyDID（マイ ディーアイディー）とは・・・？



MyDID

MyDID・・・スマホに入れて持ち歩く、新しい時代の身分証明書

ブロックチェーン技術でプライバシーを保護、より便利で安全に個人情報を管理する仕組み

① 「自分専用」に発行されたデジタル上の身分証明書



- ・氏名／生年月日／住所
 - ・メールアドレス
 - ・電話番号 など
- ブロックチェーンで厳重に管理*

個人情報が特定の企業やサービスに帰属しないため
悪用される危険性が少ない

② スマホ内のお財布「とよのんウォレット」活用でお得がいっぱい

TOYONON
WALLET



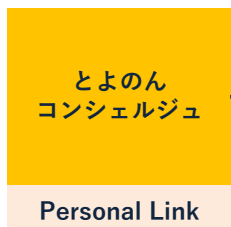
とよのんウォレット

とよのんウォレットの設定時に
My DIDが発行される



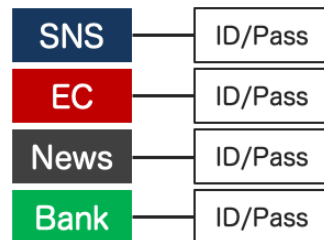
プレミアム付きデジタル商品券や
豊能町独自ポイントの利用が可能に

③ MyDID一つで様々なサービスにログインが可能（将来）

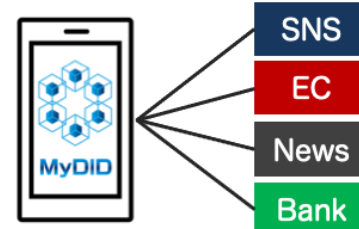


MyDIDでログインすれば
あとはサービスごとにID/パスワードを設定する必要がない

④ 様々な企業で発行しているID/Passを一つにおまとめ（将来）



（現状）各サービス毎に
ID/Passを発行して管理



様々なIDを一つにまとめて
自分の情報を整理できる

MyDID連携でできるようになること（例）

健康ポイント／環境ポイント等の付与



ポイントはデジタル通貨として利用可能

行政サービスもスマホで提供



給付金の受取や税金の支払いがスマホで完結

エリア毎にパーソナライズされた 自治体からの情報発信



デジタル上の回覧板。防災情報等の発信等に活用

病歴や投薬歴をスマホに格納 緊急時も医師に正しい情報を共有できる



病歴や投薬歴を記録するサービスと連携して
各病院に散り散りになっている治療歴をスマホに集約

ありがとうございました！



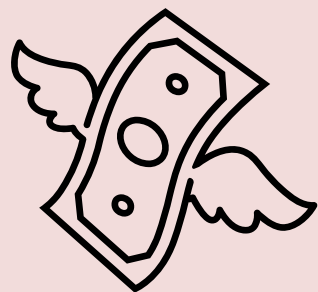


Appendix

参考：デジタル商品券と従来のキャッシュレス決済サービスの違い

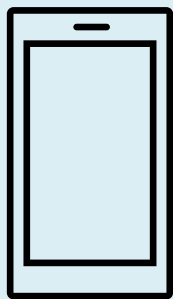
	従来のキャッシュレス	デジタル商品券
<div>①決済コストの違い</div> <div></div>	銀行間送金手数料やCAFIS使用料など 決済手数料として加盟店が負担している (手数料率1.6~5%程度)	加盟店手数料を大幅に 削減することが可能 <small>*クレジットカードチャージ時や加盟店精算時に発生する 手数料は発行者（自治体）側が負担</small>
<div>②購買データの入手</div> <div></div>	利用者データや購買データは 決済事業者に帰属	利用者データや購買データは 発行者である自治体に帰属 マーケティング等に活用可能
<div>③汎用性の違い</div> <div></div>	B to Bの決済や 即時決済はできない	B to B決済や即時決済に対応する デジタル通貨に昇華させることが可能 <small>*資金決済法上、実現には金融機関が通貨発行者になる必要あり</small>

デジタル商品券の場合、PayPayやLINE Payのように
日本円に換金することが不可能



紙の商品券の発行・管理・運用には 手間やコストが掛かる

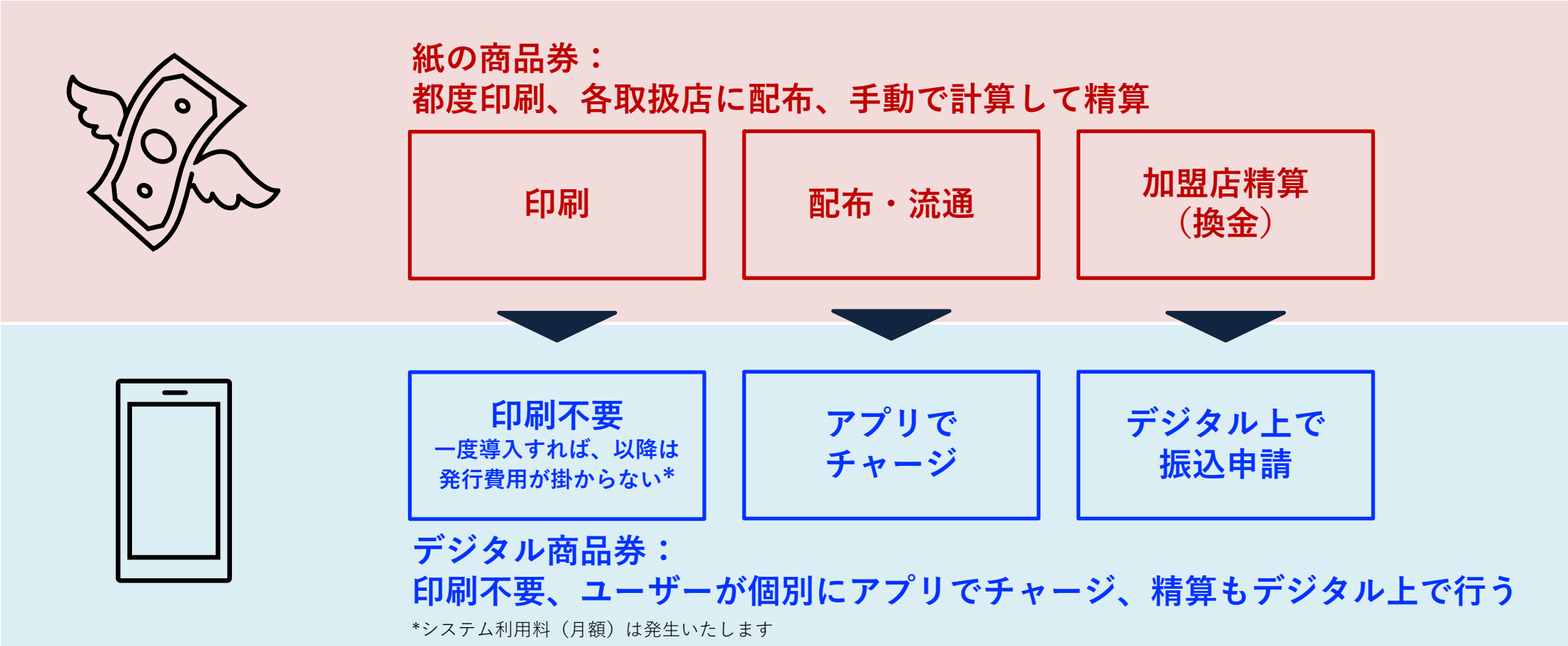
印刷不正防止を施した印刷／通貨の配布・換金業務 等






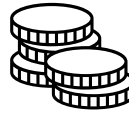


デジタル商品券なら、管理・運用等の コスト削減が可能

通貨の発行・配布・換金など全てデジタル上で対応可能

参考：デジタル化で削減できる手間とコスト（例）



参考：プレイヤー別 商品券デジタル化のメリット

発行者（行政・商工会議所等）	ユーザー	加盟店
<div><ul style="list-style-type: none">・不正使用の防止・不正印刷の防止</div> <div><ul style="list-style-type: none">・事務負担の軽減・データ収集・分析可能・効果の可視化</div>	<div><ul style="list-style-type: none">・利便性の向上・利用率の向上</div> <div><ul style="list-style-type: none">・1円単位で利用可能</div>	<div><ul style="list-style-type: none">・手数料が安価</div> <div><ul style="list-style-type: none">・事務負担の軽減</div>